

本紙2000号記念

ポートランド&シアトル ライフスタイル業態視察ツアー

「商業施設新聞2000号記念ポートランド&シアトルライフスタイル業態視察ツアー」が、5月23〜28日の日程で行われた。街づくりや商業開発などに携わる20人が参加し、米国の先進的な街づくりの取り組みや街の雰囲気を感じ、参加者からは大きな収穫を得たとの声が聞かれた。

視察ツアーは、本紙で「商いの新しいものさし」を連載中の(株)商い創造研究所 代表取締役社長の松本大地氏がコーディネーターを務めた。松本氏はすでに十数回にわたり歴訪し、その魅力に魅了されたポートランドで学ぶものとなった。ポートランド空港からダウンタウンに向かうバスからまず目にするのは、ポートランドの街づくりの起点ともなった市内を走るLR.T。視察では、まず個性的な店舗が立ち並び、ミシシッピー通りやアルバータ通りを歩いた。かつては暗く人通りが少なかったエリアだという。続いて、地場スーパーのニューシースンマーケットを訪れた。地

先進事例に触れた6日間

多くの刺激、ヒントに

を知り尽くす第一人者。松本氏が組んだプログラムは、街の魅力を短期間で



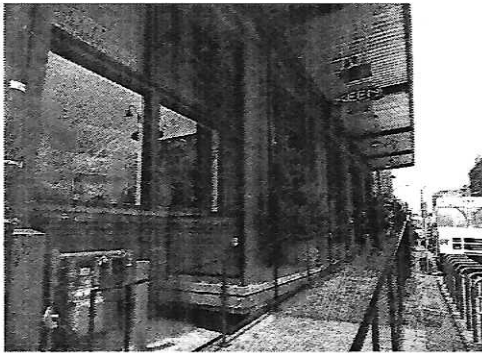
シアトルではLSC「ユニバーシティウィレッジ」などを視察した

例を紐解くべく、ZGF建築事務所とポートランド都市開発局を訪問。持続可能な環境に配慮した街づくりの思想や仕組みを学び、その成果ともいえるパール地区を視察。かつて倉庫街の建物はそのまま

午後は、希望者を集めてマウント・フード周辺を視察した。ダウンタウンからおよそ車で2時間。5月下旬でありながらスキーが楽しめる、さらにはそこから山を下れば美しい湖が点在し、雄大なコロンビア川が眼前に広がる。そこで繰り広げられる様々なアウトドアアクティビティ。街を愛し、アウトドアを楽しむポートランド住民のライフスタイルがうかがい知れた。ポートランドの暮らしぶり、そこに暮らす持続可能な街づくりに参加者は多くのヒントを得たよった。

翌日はワシントン州シアトルに移動し、その高い完成度は全米で1、2位を争うといわれるライフスタイルセンター「ユニバーシティウィレッジ」などを視察。1959年の開業ながら新鮮味を失わない施設運営に参加者は大いに刺激を受けた。

短期間ではあったが、参加者は異口同音に「ポートランドの街に感銘を受け多くを学んだ。また来たい」と述べ、それぞれのフィールドに活かすべく、帰国の途に就いた。



ポートランド・パール街区 倉庫を商業施設に転換している



ファーマーズマーケットはポートランドのライフスタイルのひとつ

域貢献や地元密着を標榜し、顧客目線の店舗運営や店づくり、そして福利厚生にも手厚い姿勢に驚嘆の声を漏れた。

そして、「ビジネスアライアンス」を表敬訪問し、街の魅力を高めるポートランドのBID制度、その一環である「セーフ&クリーン」システムのレクチャーを受け、安心して暮らせる街の仕組みを学んだ。

2日目は、ポートランドダウンタウンの成功事例を紐解くべく、ZGF建築事務所とポートランド都市開発局を訪問。持続可能な環境に配慮した街づくりの思想や仕組みを学び、その成果ともいえるパール地区を視察。かつて倉庫街の建物はそのまま

まに、住宅や高感度のレストランや物販店舗、オフィスが集積したエリアの賑わいを感じた。3日目の土曜日は、ポートランドのライフスタイルを象徴する2つのオープンマーケットを訪れた。ひとつがポートランド大学敷地内に設置された、生産者と消費者が交わる「ファーマーズマーケット」。もうひとつが、変わり者を体現し文化発信の場となる「サターデーマーケット」だ。